



発行所 栃木県立真岡農業高等学校
同窓会
発行人 編集部
同上 印刷所
印刷 森田印刷所



ご挨拶

同窓会長 田上昇

世間は日増しにきびしさを感ずるようだ。外国では、カンボジアやイランなど問題が多いと思っ

常に良いこと、良くないことは裏腹の関係にあって片方だけということにはならないらしい。そこに努力もいるし、勇気をお



副会長に就任して

副会長 大倉一郎

そうした矢先に、わが農業分野にも大きな変化が進行中である。いわゆる米の過剰である。投資するにも過剰と思いたが折角買った田圃も使うことができな

この度ははたすらも、同窓会副会長に選任され、責任の重大なるを痛感しているところでありすが精一ぱい努力し、会の発展に寄与したいと思えますので、会員各位のご協力ご指導を心からお願ひするものであります。

和四年三月でした。校長は第三代相馬助五郎先生で高潔にして礼儀正しく、その目はやさしく澄んで居られたのが印象的でした。

南米視察報告

学校長 高根沢富男



それだけに愛国精神に燃え、質実剛健、土に生きる勤労青年を求めめる声は高かったものであります。報徳精神が、当時の国民精神更生大いに喧嘩されました。

されて居りますことは、同窓会としても喜びにたいないことであります。日本の歴史で、有名な二宮尊徳翁、浄土真宗の祖親鸞、隊芸の間国宝、浜田庄司先生達が、その生涯をかけて開発された芳賀の地に、生をうけ真農に学ぶことの出来た喜びと感激を忘れず、私も会員の皆様と共に同窓会の充実、学校の発展の為会長を補佐して頑張る覚悟であります。

国際協力事業団と全国高等学校海外教育研究協議会共催による、昭和五十三年度海外研修視察団として、全国各都道府県から七名選出され私が視察団長として本部から推せんを受け一行八名で、南米ペルー、チリ、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジルの五ヶ国を二十四日間の日程で、七月二十日より八月二十日まで学校をあげ会員の皆様方から、多大の激励とご厚情を戴きながら無事大任を果し得ましたことを感謝申し上げ視察の

概要を報告いたします。上野の宿を過ぎ出て、スカイライナーで一気に成田に。警戒厳重な空港を一八、〇〇離陸、ブラジル航空八三三ジェット機中の人となり機内食六回、バター、チーズ、肉攻めでバターノイローゼ気味、二十四時間後、英語も全く通じないポルトガルの国、散々苦労してホテルに着いたのは真夜中、仮眠程度で間もなく出発準備、中心街を歩出ると首都リマの貧困さを見せつけられる。

貧しい国、アンデスの山脈を左に南米西海岸を南下、山は海に迫って耕地も狭道すら容易に捜し出せない。ご挨拶程度のダムが稀にあつて一寸とした耕地と家が散在するペルーとチリは山の国だった。チリの首都サンチャゴを離れて雪に輝くアンデス山脈を越えたと大平原が眼下に展開される。夕方エセイサ空港に着陸、アルゼンチン首都ブエノスアイレスに旅袋を解く。ブエノスアイレスの夜は、冷いて皮オーパーを着た人達が三、三、五五街を通り過ぎて行く、冬の所為もあるがガッチリした一九世紀歐風の建物であるにか、わらずネオンが少く街は暗く淋しさを感じずる静かな街であり、スペイン、イタリア等ラテン系の民族で造られたところと敷石の舗装道路が見られる、古風でしかも美しいが日本やブラジルの都市と比較して活気がない。

サ移住地を訪ねる。

二〇〇世帯の日系人で形成され養鶏、花卉経営が主体、牧畜は万ha単位の広大な地主でないとい。一haに一頭の肉牛放牧三年で出荷少くとも一牧場主一〇万頭の肉牛を飼育しては、牧場主の部類でないとか……大概牧場主は大地主で支配人を現地に駐在、首都に住み政界、財界の大物になっていくとか……

パラグアイの首都、アスンシオンを拠点とし農業、工業の移住センター訪問、更に奥地に入りイグワス移住地に着く。

前原養鶏場は産卵鶏八万、育成鶏二万羽、親子三世帯協業経営、広大な飼料倉庫をもち、山積みされた飼料には驚く。

私は、(父親)この飼料が値上りするだけで労賃は賄える又鶏糞の代価でも同様だと説明したが、立派な大邸宅を鉄筋で建築中、鶏舎は木骨バタリーで粗末この上なし。

日本人でありながらパラグアイ人を外人と称し、俺は外人三〇名を雇っていると云いのける日系人の心算には敬服する。

国境友情の橋を渡ると、田舎と、都市の差を感じさせるブラジルである。

イグワス空港からサンパローに向け離陸、真農生の多いブラジル。

ご家族の方から頼られている手紙、営農資金など早く会って元気な姿を見たい。一時間三〇分で広範囲に輝く灯の見える街、あゝ!!

サンパローに着くと、胸をおどろかせた途端城内放送、「サンパロー上空濃霧のため着陸不能クリケーバ空港で待機着陸する」待つこと長く遂に好転せず、明朝になるとのこと、ホテル投宿も余儀なく、会社差廻しのバスでホテル、イドワルトに入る。予期しない高原の街、海拔九〇〇M、三万の人口、商工業の中心、特にマテ茶の集荷地果樹(リンゴ)の産地とか、見分を広めることが出来た。

翌日ブラジル県人会長菊地軍平氏一行の迎えを受けた。

他の団員は各国で県人会の迎えを受けて歓談していたが、栃木県人は少く雨でブラジルに来て始めてのこと、感無量であった。

リオデジャネーロ、ブラジリアを経て待望のペレン、トメアスである。

ペレン空港に着くと、真農卒の高野氏、大根田氏の顔が見える。握手どころか抱き合っつてとの挨拶だった。

ペレンの三日間、次から次ぎと野沢、大根田、黒崎兄弟、佐々木高野、早瀬各氏の農場と家族訪問いづれも二十年前の真農卒業生、教え子達どんなに時間があっても足りない。

夜を徹しての談話と視察、流石に疲労を感じた。それだけに収穫も多い。

ピインタ栽培に成功したかに見えたが病害、収穫寸前で枯死、これが再建に苦心惨胆、よく今日まで頑張ったものだと言一言と力

が入ってくる。

そして、ピメンタ、マラクジヤ、メロン、パ、イヤ、カ、オの混作経営で再起、更に第三トメアスに25ha、50haの新天地を開拓し通農経営、所謂ゆる外人支配人をおき外人雇用の農場経営である。各人二、三児の二世を育て希望

青年部活動の思い出

常任理事 井野 博



私は第四十三回(昭和二十七年)の卒業です。

その頃、同窓会に青年部を作ろうという気運が、いつしか強く高ま

って参り、本会総会にて、私共何人かで真農に提案致して万場一致で決定をされた事などはっきりと記憶にあります。

ついに昭和三十年九月に百名を越す若い同窓会員が親しく集まって、めでたく盛況の中に設立総会を開催したのであった。

卒業して十ヶ年間の同窓生が青年部会員としてこれまでの貫緑だけの同窓会に若さと活を入れようと、素朴な期待をかけられ順調にスタートを切ったのである。

本校では当時若い卒業生の教育指導については誠に熱心な理解を示され、営農や研修活動に懇切な指導を頂いて卒業後も深いつなが

に燃えて農場拡張、安定経営に同志を燃している、真農卒業生が同窓生諸氏によりしく、俺達はトメアスで頑張っていくぞ、母校の発展を願ってザルー(ともに慶び合う)この力強い言葉に送られ帰国の途に着いた。

抱負と希望に満ちた新しい年を迎えたその中で会報が発刊されまことは誠に嬉しいことであります。

りを持ったのであった。

卒業年次毎に自営者研究会を作つて研修に励んだのも、この頃で、これもみな同窓会青年部活動の中に含まれて行ったのであつた。また学校農業クラブの卒業生の全国組織である日本学農青年協会(昭和三十一年秋結成大会)の活動にも、本校では他の誰よりも理解をなされ、本県学農青年運動のリーダー的な役割を果たす事も出来た。

学農主催の夏季研修会や毎年東京の日本青年館で三泊四日の日程で全国農業青年会議が開催され、青年部からも応援を頂いて、女子を含む十名の代表を送り、明日の日本農業を担う青年の逞しい研究討議に参加して勉強をしたものである、又ブラジル移住のトメアス農場建設にも青年部がそれなりの役割を活動の中で果たしたのも大きな記憶の一つです。

優良農家の視察と県外先進地視察等、バス一台にたっぷり会員を乗せて実施出来た時など、同窓会に青年部あればこそその観をしみじ

みと抱きました。

今私は過ぎし当時あの頃を愉しく思い出しておりますが、本当に

母校の思い出

青年部長 富山 博 夫



抱負と希望に満ちた新しい年を迎えたその中で会報が発刊されまことは誠に嬉しいことであります。

私が真農を卒業して早いもので十一年がたちます。一昨年創立七〇周年を迎えました真農の歴史の中で私は伝統ある母校に入学卒業したことが今になって誇りに思える。

一年に入学した当時は、今の工業高校にあった運動場も狭く校舎もいたんでいた今考えると私達の先輩達が学んだ校舎であると言う事に重みを感じる。農場ではスクールバスで行き実習に行く時はいやな気分がしました。

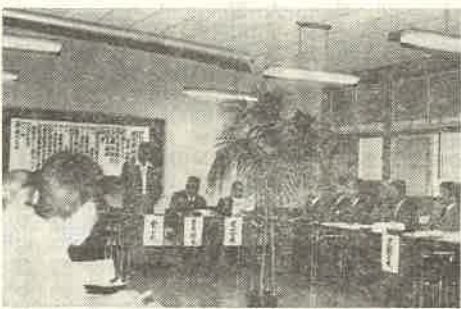
先生に又怒られながらやらなくてはならない、しかし帰りのバスは授業が終わると皆んな先をあらそってバスの順番を取ったものでした。

二年になると今は合宿所になってしまったが、そこが分校舎で女生徒はまったくなくコンプレックスを感じた。

良き時代であったと懐古の情に心からひたるものであります。

又宿泊当番も思い出される、私にとって一番充実した時期であった、三年になるともう卒業と言う事ばかりであり授業にも熱が入らずうわついた時だった卒業間近になって新校舎への引越をし二、三ヶ月授業をしたことが印象的であった、こうして真農での三年間を過ごし振り返ると友人や先生の出合いがあっただけで私にとって十分価値のある時代であったと思う。

昭和五十三年度総会風景



母校に足を

常任理事 菅 谷 忠 太



「農は国の本なり」こんな言葉

が私の胸から忘れられてしまっ
たのではないかと最近つい聞いたこ
とがない、今度事務局から原稿を
依頼され母校を思い浮べ、ふと思
い出した言葉だった、私は昭和十
四年から三年間八幡が丘に学ん
だ。

当時の校歌の中に報徳精神を鍛
え第二の農聖を自任して、とうた
われていた。

熱風教育に汗したものであった、
最終学年の六ヶ月は大野原の報徳
寮にて生活を共にし五五の砂利道
を歩いて学校に通い又、夏休みは
返上して開墾に鍛えられた思い出
もなつかしい、今にして思えばそ
れは豊かな人間形成と強い農業精神
の確立のためであったろう。

今母校は新しい農業の担い手
の教育の場として大野原に堂々たる
威容を誇っています。

校舎も校庭も庭園も目を見張る
程完備されております。

母校に一步足を踏み入ると、土
臭い、汗臭い、農業から

スピードと快適な機械農業へ
の時の流れを一目に感じることが
出来ます。

知識や技術の修得も大切

長い伝統に培われ農民魂を

身につけてほしいな

年のためだろうか

限らない発展を続けている母校に

一度足を運んで見ませんか

支部だより

支部結成十余年の歩み

茂木支部長 飯村 孝 義

茂木支部は昭和二十九年町村合
併後、旧茂木、逆川、中川、須藤
の四地区が昭和三十三年二月十六
日第一回総会をもって結成されま
した。

会の名を真陸会といい、真岡農
業高等学校同窓生が親睦をはかり
地域社会に貢献することを願いま
した意義ある命名になっていま
す。

事務所を茂木町役場内におき、
常任幹事三名で内同窓生の役職職
員の方が庶務、会計の任にあたっ
ています。

会則に会員は通常会員と特別会
員があつて通常会員は町内在住者
で会費を納入して会員になりま
す。

年会費は三百円で僅かながら事
業費の一部にあてられます。

総会、視察、研修旅行、懇親
会、その他の特別支出はその都度
徴収します。

通常総会を毎年二月に行うこと
とし結成以来続けており、必要に
応じて臨時総会を開きます。

これまでの事業の主なもの、
講演会、視察、研修会、会員の
受彰祝賀、退職役員への記念品贈
呈、物故会員への敬弔、病氣、災
害見舞を行つています。

こうした中で講演会には母校校長
先生、同窓会長さん、茂木町長さ
んを依頼しています。

視察は同窓生の模範農業経営を
年一回三年続け、一日研修会は今
市市二宮神社、奥蔵方面へ、一
泊研修旅行は那須郡馬頭町馬頭院
その他、福島県二本松市花巻賞、
湯西川温泉郷探勝、福島県あぶく
ま洞見学など毎年の有意義な行事
を通じて会員相互の親睦をはかり
ながら、会の目的にそつて着実に
運営されています。

今後の課題は、今の世相からく
る悩みの若年令層、一般同窓生の
入会に、もっと一段の理解と協力
が得られ多数の会員がで、加え
て行事へ積極的参加があつたな
ら、更に活気に満ち盛会になるも
のの将来に期待をかけています。

このような当支部状況の一端を
お知らせすることになりました
が、支部結成後、会名に照してま
だ幼稚で恥ずかしい足あとになつ
ていることを残念に思っています。
このとき優秀他支部のご指導を
いただき、茂木支部発展の糧にな
ることが出来たらまことに有
難い幸です。

終りに母校創立七十周年記念事
業同窓会基金造成の達成を機会
に、各支部ともども明日への飛躍
的成長を目ざして益々のご活躍を
祈念いたします。
(昭和五十三年十二月記)

中国視察報告

(昭和五十三年十二月二十三日～五十三年一月六日)

建国の迫力にふれて

眞農高教諭 菅 谷 善 六

厳寒の最中、短かい期間ではあ
つたが、私にとって初めての国外
の旅、それも隣国でありながらそ
の現在の国情は意外に知られてい
ない、しかも私たちの生活には過
去現在とも深い係りを持ち、また
将来にも極めて深い関係があるで
あらう中国に、農業高校教員友好
訪中団の一員として農業と教育事

情等この肌で感じこの目で確かめ
られたことは、私にとって大変意
義の深いものであった。
寒さに身の縮む思いの万里の長
城の十三陵の壮大さ、故宮の華
麗にして威厳に満ちた建築を眼前
にしたときは、全中国人民の偉大
な力をまざまざと見せつけられ、
ただ感嘆するのみであった。

躍動するクラブ活動

クラブ後援会係主任 高垣由男
今年度のクラブ活動は、多岐に
わたつて活発な活動が見られまし
た。このことは会員皆様の温かい
ご支援の賜ものと厚く感謝してお
ります。

成績の顕著だったものを拾い上
げると、バドミントン、陸上、柔
道、弓道、農業クラブなどいすれ
も関東大会に出場して大活躍を
いたしました。

中でもバドミントン部は、六月
の関東大会で男子団体優勝、石川
幸雄君が個人優勝、インターハイ
予選で男子団体優勝、八月の関東
選手権には男子ダブルス優勝、十
月の新人戦では男子団体優勝、女
子準優勝と関東の雄として成長
いたしました。

その陰には元日も休まず徹底した
練習監督の指導があつたからだ
と思ひます。

優勝の喜びでわくその瞬間から
次の勝利のために練習が始つてい
るのです。

きびしい練習に耐えるねばり強
い精神力の育成は農業高校生に最
も重要なものであります。

この輝かしいバドミントン部に追
つき追越そうとするクラブがいく
つも現れてきました。

野球、柔道、陸上、弓道、剣
道、サッカー、バレー、バスケッ
ト、テニス、卓球などいすれ
れの部も練習の内容、指導教師の
熱意においてバドミントンをし
のぐものがあります。

しかし、部員数や部員の素質、
くじ運伝統などちよつとしたきつ
かけが得られず、試合に敗れてしま
うことがあります。

しかし強くなりました。今や本校
のクラブ活動は躍動してきてしま
した。新年度の活躍を期待して頂き
たいと思ひます。

昭和五十三年 定期総会 開かる

昭和五十三年度の同窓会定期総会は去る五月一日母校会議室において行なわれた。
十三時より総会に入り先づ同窓会長挨拶青年部長挨拶があり続いて高根澤校長の挨拶ついで田上会長が議長に選出され議事に入った。

第一号議案 昭和五十二年事業並びに決算報告について
第二号議案 昭和五十二年事業並びに決算報告について

並びに決算報告について
第三号議案 昭和五十三年事業並びに予算案について(青年部)
第四号議案 昭和五十三年事業並びに予算案について
第五号議案 同窓会本部より一部変更について
第六号議案 同窓会基金運営委員会会則について
第七号議案 基金基金状況と決算報告並びにその運営について

第八号議案 役員改選
役員改選では選考委員を選び別室にて慎重な協議を重ねた結果会
長田上昇氏(留任)副会長に中部
より大倉一郎氏(新任)北部より小倉
沼能克己氏(留任)南部より小倉
信義氏(留任)監事に大貫寿一郎
氏ほか早乙女俊夫(新任)井野博
(新任)が選出され万場一致で決
定した。
続いて「陸」真岡市長田におい
て懇親会に入り会長挨拶学校長挨拶
がありなお新旧教頭先生の歓送
迎会を実施し盛会裡に終了した。

我が家の農業経営

二宮町沖農業士 須藤 好男

我が家の経営の内容は、水田一
八五アル内水稲作付面積は一六
三アル、内畑一三アル内梅林
三アル計一九八アルであり水
稲、梅、花卉、露地野菜等が主な
収入源である。
次に家族構成は父七〇母六七私
四八妻四六長男二五字高校教諭次
男大学在学中三男高校在学中の七
人家族である。
労働力は一応私妻父の三人では
あるが二、五人位であり年間の平
均労働時間は一日当り七二時間で
ある。
特色としては先ず年頭に今年度
の所得目標を決め、それに基づい
て作目選択と同時に作付面積、又
労働の配分を行うのである。
では作目別に書いて見よう。
水稲に就いては、省力多収をモッ
トに一昨年より約七〇アルに
バラ播き田植(空中田植)を導入
し約一割強の増収を計る。
本年度は例外ではあるが十アル

同窓会 役員 名

役職	氏名	住所	役職	氏名	住所
顧問	菊地 幸作	真岡市東郷	山前支部長	金敷 芳雄	真岡市根本
顧問	小林 善蔵	真岡市並木町	田野支部長	渡辺 種樹	益子町小泉
顧問	加藤 七蔵	宇都宮市峰町	益子支部長	小玉 光蔵	益子町堀
顧問	広瀬 秀吉	宇都宮市清住町	七井支部長	高野 勝徳	益子町小宅
顧問	上野 重郎	二宮町大曾	物部支部長	野沢 弘	二宮町物部
顧問	荒井 英雄	芳賀町与能	久下支部長	小島 豊	二宮町阿部品
顧問	館野忠次郎	真岡市西郷	長沼支部長	海野 保	二宮町古山
顧問	高根沢富男	真岡市熊倉町	祖母井支部長	大根田正二	芳賀町下延生
名譽会長	田上 昇	真岡市長田	南高支部長	沼能 克己	芳賀町下高根沢
会長	大倉 一郎	益子町七井	水橋支部長	樋田 清	芳賀町東水沼
副会長	沼能 克己	芳賀町下高根沢	上三川支部長	田村 守重	上三川下蒲生
副会長	小倉 信義	二宮町長島	本郷支部長	古口 孝夫	上三川下藤沼
常任理事	小玉 光蔵	益子町堀	河間支部長	青木 敏憲	下館市羽方
常任理事	金敷 芳雄	真岡市根本	茨中支部長	廣沢 茂	下館市筑瀬
常任理事	菅谷 忠太	真岡市下籠谷	小栗支部長	杉山 和雄	協和町蓬田
常任理事	井野 博	益子町益子	五所支部長	小林 泉吉	下館市子恩儀
常任理事	滝沢 宏行	宇都宮市花房町	市羽支部長	町井七郎右三門	市羽町野辺
常任理事	大貫寿一郎	真岡市島	小貝支部長	吉田 誠義	市羽町門毛
常任理事	早乙女俊夫	宇都宮市西刑部	瑞穂野支部長	坂井 通晴	宇都宮市東刑部
常任理事	井野 博	益子町益子	茂木支部長	飯村 孝義	茂木町深沢
常任理事	増山 真一	真岡市東郷	清原支部長	半田 光有	宇都宮市氷室町
常任理事	大内支部長	真岡市飯員	宇都宮支部長	山田 博	宇都宮市一の沢町
常任理事	中村支部長	真岡市長田			

同窓会 青年部 役員 名

役職	氏名	住所	役職	氏名	住所
顧問	平石 久夫	二宮町鹿	益子支部長	山崎 光男	益子町益子
〃	豊田 義雄	二宮町横田	七井支部長	押久保一郎	益子町七井
部長	富山 博夫	真岡市上大田和	物部支部長	笠原 博	二宮町三谷
副部長	仙波 登	真岡市長田	久下田支部長	石崎 悦子	二宮町石島
〃	七井 真人	芳賀町東高橋	長沼支部長	柴山 千勝	二宮町長沼
〃	福原 光雄	益子町上山	祖母井支部長	大根田 源一	芳賀町下延生
監事	横田 由伸	二宮町横田	南高支部長	黒崎 幸三	芳賀町下高根沢
〃	直井 勝雄	市貝町杉山	水橋支部長	阿久津英之	芳賀町西水沼
常任委員	内田 健一	下館市落合	上三川支部長	野寺 勝好	上三川町下蒲生
〃	広田茂十郎	益子町山本	本郷支部長	鶴見 成晴	上三川町上郷
〃	大根田貞夫	芳賀町西高橋	茨中支部長	小島 広之	下館市泉
〃	高橋 幸子	二宮町高田	小栗支部長	清水 和己	協和町小栗
真岡支部長	沖村 喜裕	真岡市亀山	市羽支部長	熊代 成司	市貝町市堀
大内支部長	藤田 昇	真岡市赤羽	小貝支部長	小堀日出夫	市貝町杉山
中村支部長	本橋 実	真岡市若旅	茂木支部長	菱沼 明美	茂木町北高岡
山前支部長	飯村 博	真岡市東大島	清原支部長	菊地 一郎	宇都宮市鑑山
田野支部長	渡辺 政男	益子町小泉			

編集 後記

この会報が、会員一人一人にも
れなく配布されることを希望しま
す。この会報発行を機会として、
今後なお一層同窓会活動が活発に
なり、或は問題提起となれば幸だ
と思ひます。
原稿資料をお寄せ下さいました方
々に、心からお礼を申し上げます